育ちあい　支え合いの循環をこれからも

前川　良太

長いようで短いような１年が今年も終わろうとしています。月並みですが、大きな事故もなく子どもたちも元気にこの時期を迎えられることは本当にうれしく思います。今年度は法人 20 周年記念式典も行いました。300 人を超える現役からＯＢ保護者、全国の支援者、地域の皆さんたちがお祝いに駆けつけてくれました。当日は姉妹園のアトムも休園にし、休日保育を利用する保護者の方にはお休みの協力をしていただきました。また企画から保護者の方に関わっていただき、当日のステージをお父さんたちが盛り上げてくれました。ありがとうございました。あの日のあたたかな光景は忘れられません。そして式典にはたくさんの卒園児たちも参加してくれました。私と同世代の卒園児たちが子どもを抱いて参加していたり、自分が保育士として働きだした頃まだ赤ちゃんだった子たちが、ずいぶんと精悍な顔立ちで参加していたりするのを見て、認可して 20 年、無認可時代を含めると半世紀以上の歴史の中で、アトムが地域にしっかり根付いて循環していることを実感しました。私自身も卒園児として今は職員の一人として、また親として、この心地よい循環の輪の中にいられることに感謝の気持ちでいっぱいです。

循環と言えば、先日保幼小交流会で就学前の５歳児たちが小学校をたずねました。するとたくさんのつばさ卒園児たちが声をかけて、世話を焼いてくれたそうです。あんなやんちゃやったのになぁ、なんて担任と話しながらうれしい気持ちになります。他にも、この春高校を卒業した子が４月からアルバイトさせてほしいなんて嬉しい声もあり、世代がどんどん巡っています。

今年度も 19 名のぞう組の子どもたちが卒園します。今年の子たちは特に個性豊かで、得意不得意も持ち味もずいぶんと個人差のある子どもたちです。だけど自然と子どもたち同士がお互いのありのままを受け止めながらともに育ちました。「受け止める」なんてきれいな言葉を使いましたが、実際はぐちゃぐちゃに喧嘩したり葛藤したり。言いたいことを言えずに泣いたり、遊んだり仲間外れにされたり、また喧嘩したり…。そんな日々の積み重ねの中にだんだんと相手のことを知り、自分のことも見つめる生活でした。「ごめんね」「ありがとう」は魔法の言葉なんてよく言いますが、大人が子どもの実感を追い越して、表面的に仲良くする“方法”を教え込むことはしません。子どもたちがおなかの底から『悪かったな』『助かったな』と感じたとき、その実感に寄り添いながら、『その気持ちは“ごめんね”って伝えるんだよ』と大人はそっと背中を押します。そんな風に育った子どもたちも、いよいよ残り１か月の保育園生活となりました。残り短い期間を大切に、親子で力いっぱい楽しんでほしいなと思います。そしてまた、良き地域の大人として、これからも保育園と子どもたちを支えてもらえると嬉しく思います。

アトムのような誠実な保育園がもう一つこのつばさが丘の地域に…そんな親たちの願いが実を結んでつばさ共同保育園も 13 度目の春を迎えようとしています。そんな先人たちの思いに感謝しながら、これからも誰かの願いや困ったに一緒に耳を傾けながらともに歩む私たちでありたいと思っています。今年度も一年間ありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしくお願いします。

パート職員の籠池さん（みほちゃん）と子どもたちの午睡の見守りと、園内掃除のため、短時間勤務していたパート職員の成子さん（ありちゃん）が今年度をもって退職となります。二人とも長くつばさを支えてくれた仲間です。ありがとうございました。